

農政の動き 10月16日～10月19日

◎イグサの作付面積 前年産比10%減

農林水産省は、2017年産イグサの作付面積は前年産比10%減の578㍉となったと公表した。他の作物への転換などが要因で、12年産以降5年連続で減少しており、09年産比では6割弱に落ち込んだ。17年産の収穫量は、好天で10㍉当たり収量が前年産を14%上回ったことから2%増の8530㍉となった。豊表の生産量（16年7月から17年6月まで）は、4%増の265万枚だった。（16日）

◎FAO模範農業者賞に熊本県の大津愛梨さん

国連食糧農業機関（FAO）が、アジア・太平洋地域の農業発展に貢献した人を顕彰する「模範農業者賞」に、今年は熊本県南阿蘇村の大津愛梨さんが選ばれ、タイのバンコクで授賞式が開かれた。日本人の受賞は2人目。大津さんは、全国的な女性農業者組織である「田舎のヒロインズ」の理事長として、田舎のあり方や農を営む女性の生き方を模索・提案するとともに、東京電力福島第1原発事故後には、家畜ふん尿を用いた再生可能エネルギーの事業化に取り組んでいる。さらに昨年の熊本地震後には、阿蘇の美しい風景を見ながら地元産食材を楽しめる「レストランバス」をプロデュースするなど、被災地の復興にも尽力したことも高く評価された。（16日）

◎果樹の栽培面積 いずれも減少傾向続く

農林水産省は、2017年の果樹の栽培面積（7月15日現在）を公表した。ミカンは前年比2%減の4万2800㍉で、その他かんきつ類は1%減の2万6千㍉となった。リンゴも1%減の3万8100㍉で、柿は3%減の2万300㍉、クリは3%減の1万9500㍉、日本ナシは3%減の1万2100㍉となるなど、いずれも減少傾向が続いており、特にミカンや柿、ナシは10年前に比べ2割近く減っている。ブドウは前年並みの1万8千㍉。なお、茶の栽培面積は、2%減の4万2400㍉となった。（17日）

◎9月の訪日外国人旅行者数 過去最高を更新

日本政府観光局は、2017年9月の訪日外国人旅行者数は前年同月比18.9%増の228万人で、9月として過去最高を更新したと発表した。1～9月の累計は2119万6千人で、これまでで最も早く2千万人を超えた。また、観光庁によると、1～9月の訪日外国人旅行者の消費額（速報）の累計は、前年同期比14.7%増の3兆2761億円となり、過去最高のペースで推移している。（18日）

◎台風18号による農業分野の被害額は192億円

農林水産省は、9月中旬に全国的に暴風雨被害をもたらした台風18号の農林水産関係被害額（19日午前10時現在）を更新した。43都府県から被害の報告があり、農業分野の被害額は191億9千万円に上っている。うち農作物などが38道府県で40億4千万円（4万4003㍉）、農業用ハウスは35道府県で5億2千万円（4612件）となった。農地は21府県で66億6千万円（5238カ所）で、農業用施設等は20道府県で78億3千万円（3992カ所）など。（19日）